
きっとうしてガメルのメダルを手にすると思っていた

月見ココア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

きつとこうしてガメルのメダルを手にすると思っていた

【Nコード】

N6697Q

【作者名】

月見ココア

【あらすじ】

オーズとの戦いで（本編第10話）コアメダルを失ったメズール。彼女のメダルを探すためにガメルがとった行動とは？

※pixivにも同じ名前で、ほぼ同じものを投稿してあります。

(前書き)

初投稿はまずどうなるかの実験すべきってことで俺では珍しい短編モノを。

中身はタイトルまんまで、ガメルならこういう展開もありかなって思ってしまった。

ほとんどガメル視点なので読みにくいですが、まあ彼は頭の中も舌足らずっぽい感じでしょう。

※p i x i vにも同じ名前で、ほぼ同じものを投稿してあります。
アドレス等はここに慣れてから、ってことで。

「どうしよう・・・メダル、見つからない」

どうしよう。どうしよう。

メズールのメダルとられちゃった。

大丈夫っていったけど辛そうに寝てる。

「おれのメダルじゃだめって、言われた」

メズールのメダル探さないと。

黒っぽい箱の下を覗く。

「・・・ちよつとあの人あんな露骨に販売機の下あさって・・・ヒソヒソ」

ない。

次は茂みの中を隅々まで探す。

「あのお兄ちゃん何してるの？」

「しっ、見てはいけません！」

ない。

あ、そうだ、メズールのなら水の中！

「ちょっと君、釣堀は泳ぐところじゃないよ!」

ない。

「どうしよう、どうしよう、メズールのメダル見つからないよお・
・」

誰か知らないかなあ。

「きゃっ、こっち見た!？」

「あいつなんでずぶぬれで歩いてんだ？」

「さっきからぶつぶつ言ってる、キモーイ」

困った。

みんな忙しくて聞けない。

「・・・そっちのほうがなんか美味しそう。ちょーだい!」

「?」

「おっおいこらお前があるだろうが、まったく、交換だ交換。ほら」

男と女が、手に持ってたモノを、入れ替えた。

「わーい!」

女、喜ぶ。

「交換・・・交換っ！」

そうだ。

交換してもらえばいいんだ。

そうすればメズール喜ぶ。

「あは、オーズウツッ！ どこおおっ！ 交換しよおおっ！！！」

「え、うつさい・・・キヤアアアッ、化け物おっ！！！」

「う、うわあああっ！」

——騒ぎを聞きつけてオーズ登場——

「ちっ、ガメルだけか」

「だけど暴れてるなら止めないと。アंक、メダル」

「ちっ」

「変身っ」

タカ

トラ

バッタ

タ・ト・バ

タトバ

タ・ト・バ

オーズだあ！

「ああつ、やっと見つけたあ、どこいたんだよお」

「よし、行くぞお・・・おお？」

「オーズ、おれのメダル。やるつ、だからメズールのメダル。くれ」

「え？」

「はっ！？」

「交換、交換する。するとメズール喜ぶ。だから交換！」

「え、ええっ！？ ア、アंकこれどうする？」

「知るかつ！」

「いや、待てよ・・・」

あ、アंकだ。アंकにも頼まないと。

「アंकウ、メズールのとおれのメダル交換」

コアメダル出す。

「バカかつ、たった一枚で四枚と交換できるか！
いいかガメル。そっちから頼んでるんだから、もっと出すべきだろう？」

ああ、そっか。

えっと、もう一枚。

「・・・・・・・・っ」

ううつ、もう一枚。

「ガメル、お前本当に交換する気あるのか？」

「あううう、だってこれ以上出したら俺、力抜ける」

「ちっ、仕方ないな。勘弁してやるっ、だがそっちが三枚なんだからこっちも三枚だ、ほら！」

重なったメダルが三枚。

メズールのだあ。

「やった、やった、ありがとうオーズ、アंक。
メズールうつ、メダル見つけたよお！」

すぐ戻ろう。待っててメズール。

「ああ、えっと、アंक。いいのか、あれで？」

「ふっ、メズールにメダルが少し戻るのはちょっと難点だが、
楽にガメルのメダルが手に入るのはありがたい。

こいつの能力は戦いには役に立つ。それを使って、返した分もとで奪えばいい」

「・・・なんだろう。わかつちやいたけどお前・・・友達いないだろ？」

「あっ!？」

——グリードたちのアジト

「メズールっ、ほらメダル。メズールの！」

「え、ガメルこれどうしたの？」

「オーズと交換してきた！」

「・・・はい？」

あれ、メズール喜ばない？

「メズール嬉しくない？」

「え、ううん、嬉しいわガメル。ありがたくもら・・・あれ、これ

は？」

おれの渡したメダル見て、メズール首をかしげた。
おれちゃんとメズールの渡したよ？

「メズール、どうした？ 三枚じゃっぱり足りないのか？」

ううつ困った。また一枚持ってオーズのところいかないと。

「いつ、いいいいの。いまはこれで充分。ありがとうガメル」

「うへへ・・・」

褒めらた。メズールになでなでもられたあ。

（やってくれるわね、アंक。

確かに三枚のうち上下に挟んであったのは私のメダルだけど、
真ん中のはセルメダルじゃないっ！）

——クスクシエ

「しゃくだがな。あの人間とやりあって多少、こういうのも学んだ
んだよメズール」

その手には三種一枚ずつのガメルのコアメダルと絵柄の違うメズー
ルのコアメダルが二枚。

「それに、オーズがいるこっちにはだぶってるメダルはあんま意味ねえからな」

まあそれもいいずれ奪わせてもらうが。

と邪悪な笑みを浮かべてアंकはしたり顔でアイスを頬張った。

—こうして、オーズはサゴーズコンボに必要な三枚を手に入れたのである。

（後書き）

とかいう妄想を筆者がしていた。
というお話。

筆者自身もいくらなんでもこれはガメルを馬鹿にしすぎじゃないか。
とか思ってたら本編でカザリに簡単に騙されてたぜ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6697q/>

きっとこうしてガメルのメダルを手にすると思っていた

2011年10月8日17時55分発行